

An aerial photograph of a town in Nagano, Japan, with snow-capped mountains in the background. The town is densely packed with buildings and surrounded by green fields. A road runs through the center of the town.

地域高規格道路 松本系魚川連絡道路

大町市街地区間

～進め方と課題の共有等～

平成30年5月

長野県大町建設事務所

地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」

大町市街地（概略計画）について

も く じ

1 地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」について

1-1：地域高規格道路について

1-2：松本糸魚川連絡道路について

1-3：大町市街地区間の検討範囲

1-4：関連計画等における位置づけ

2 概略計画の進め方（検討プロセス）について

2-1：計画全体の進め方

2-2：構想段階（概略計画）の進め方

3 課題と計画目標について

3-1：求められている役割（目標）

3-2：地域の現状と課題

4 今後の予定

1 地域高規格道路 『松本糸魚川連絡道路』 について

1-1 地域高規格道路について

- 高規格幹線道路(高速道路)を補完する役割
- **概ね60km/h**以上のサービス速度※を確保

◆道路の種類とサービス速度

高規格幹線道路 (高速道路) 80~100km/h



地域高規格道路 概ね60km/h以上



国道147号(松本市~大町市) 約36km/h※



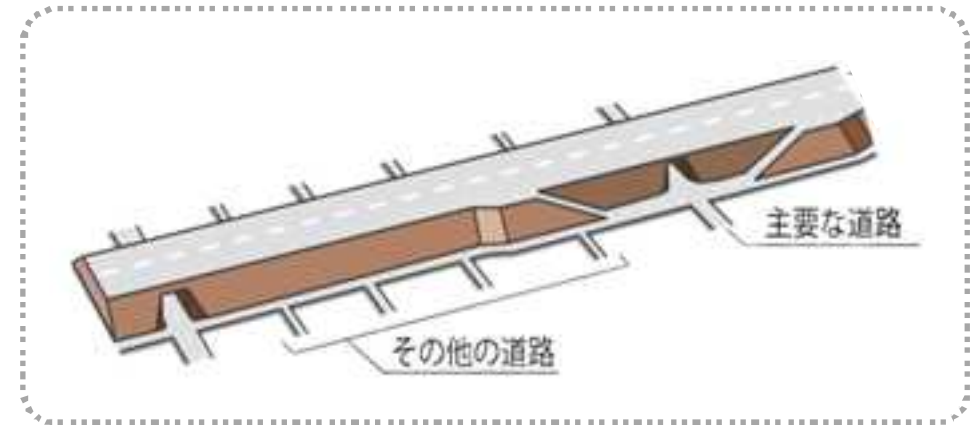
※サービス速度

: 信号停止や渋滞等も含めた実際の平均走行速度

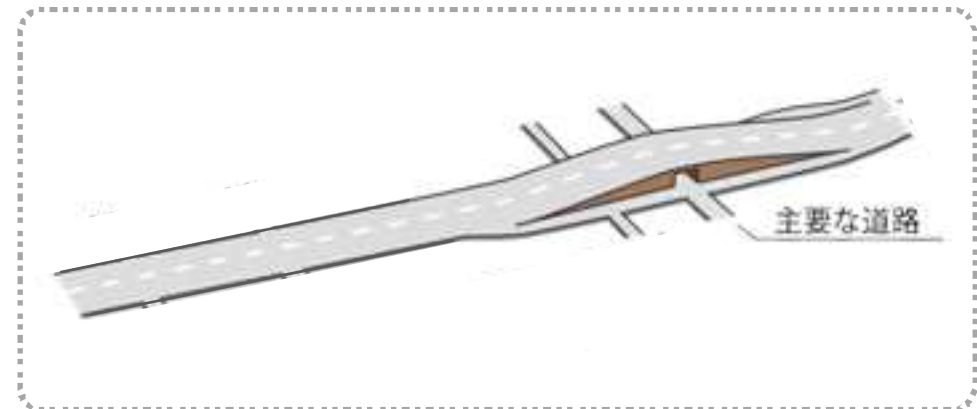
※H27全国道路・街路交通情勢調査(旅行速度調査)より

◆地域高規格道路のイメージ例

例1) 全て立体交差



例2) 主要な交差点を立体化



[参考] 地域高規格道路の事例

全て立体交差（郊外等）



全て立体交差（市街地等）



主要交差点のみ立体交差



山間部のためアクセス制限不要



1-2 松本糸魚川連絡道路について

- 松本市～糸魚川市間の延長約100kmを結ぶ交流促進型の道路
- 松本～大町～糸魚川の生活圈を連絡し、広域的な交流・連携に資する

地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路

長野県 建設部 道路建設課



【経過】

- 平成 6年 候補路線に指定 (全線)
- 平成10年 計画路線に指定 (全線)

H20長野県が県内全線の整備方針案を公表
↓
バイパス案を含め、更なる調査・検討を行う区間

凡例

長野県ルート ^{*1}	○ ○ ○
新設区間	■ ■ ■
現在の道路を活用する区間	■ ■ ■
バイパス案も含め更なる調査・検討を行う区間	○ ○ ○
新潟県ルート ^{*2}	□ □ □
ルート帯を決定した区間	□ □ □
検討を継続する区間	□ □ □
現在をそのまま利用する区間	■ ■ ■

*1: 概ねのルートを示したものであり、詳細な位置等を規定するものではありません。
*2: 新潟県の公表資料を参考に長野県が図示したものであり、詳細な位置等を規定するものではありません。

1-3 大町市街地の検討範囲(起点・終点)



※概ねの目印として表記したもので、位置を特定したものではありません。

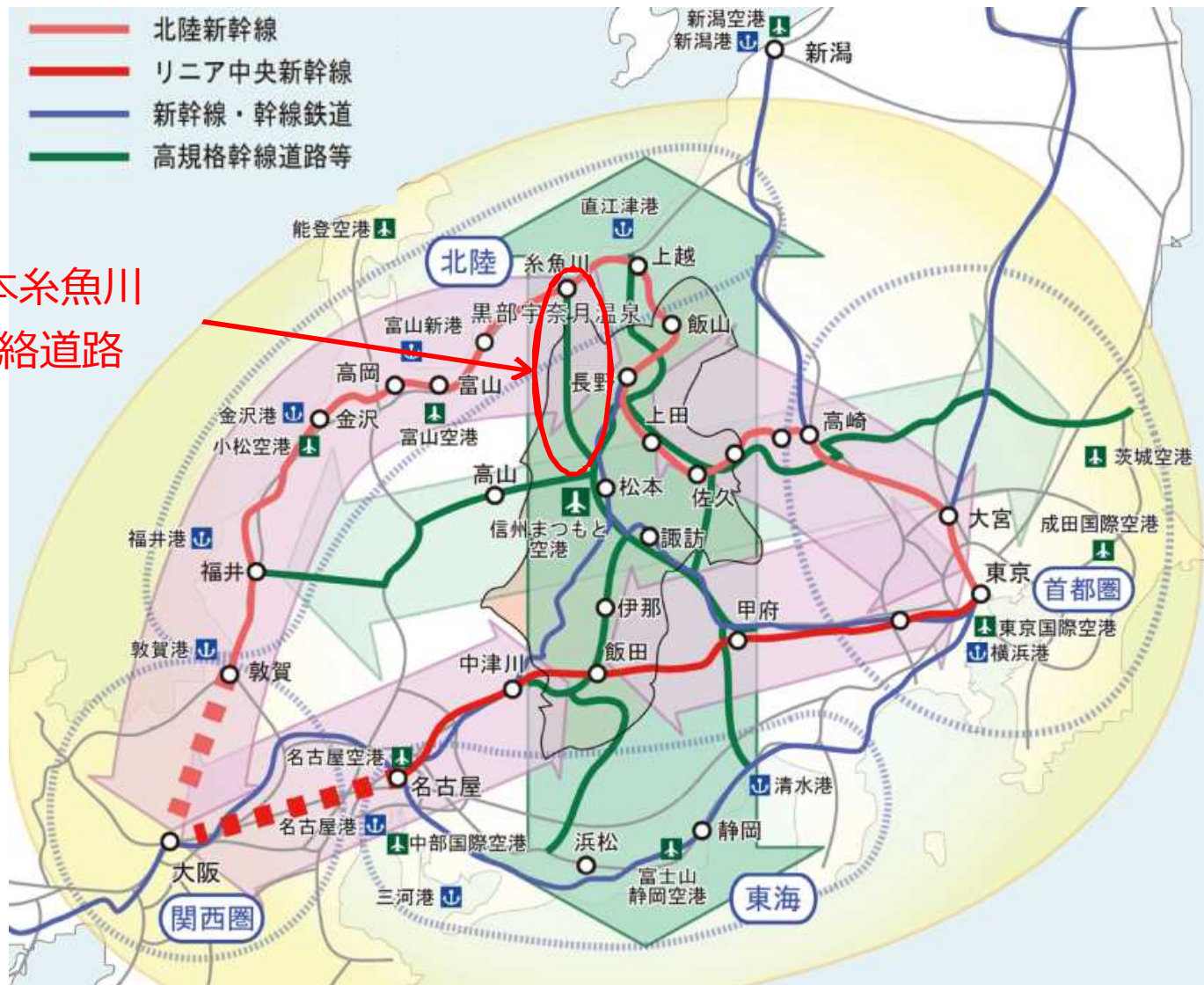
※検討にあたっては、現道活用区間との整合を図る必要があるため、起終点の位置がずれる場合もあります。

1 - 4 長野県新総合交通ビジョン（平成25年3月）

■ 「本州中央部広域交流圏」の構築

- ・ 太平洋と日本海を結ぶ、多重的道路ネットワークに位置付けています

松本糸魚川
連絡道路

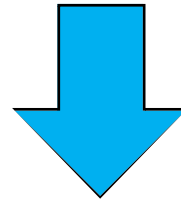


1 - 5 本州中央部広域交流圏の結節機能強化に向けた今後の方針（平成27年12月）

「新幹線との円滑なアクセスの確保」
「県内主要都市との円滑な移動の確保」

沿線地域の
産業・観光振興

北陸新幹線経由の
西方面からの玄関口等



災害に強い
道路網の構築
神城断層地震の
経験等を踏まえ

松本糸魚川連絡道路は
長野県の将来の交通の南北軸を構成する主要な幹線道路

2 概略計画の進め方 (検討プロセス)について

2-1 計画全体の進め方

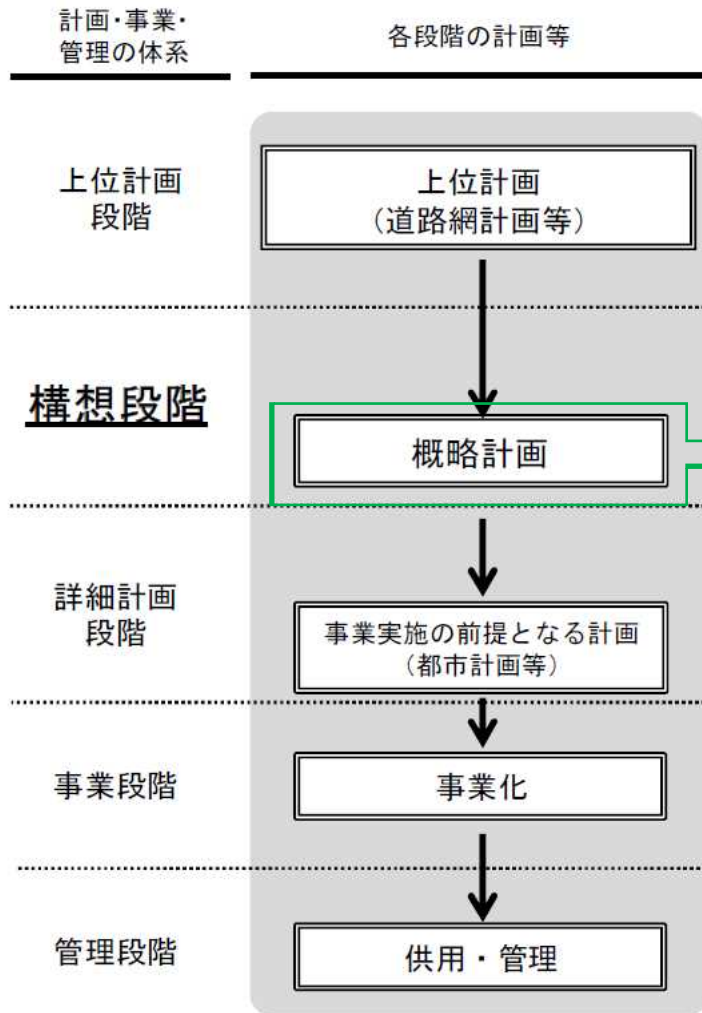


図 道路計画の体系における計画

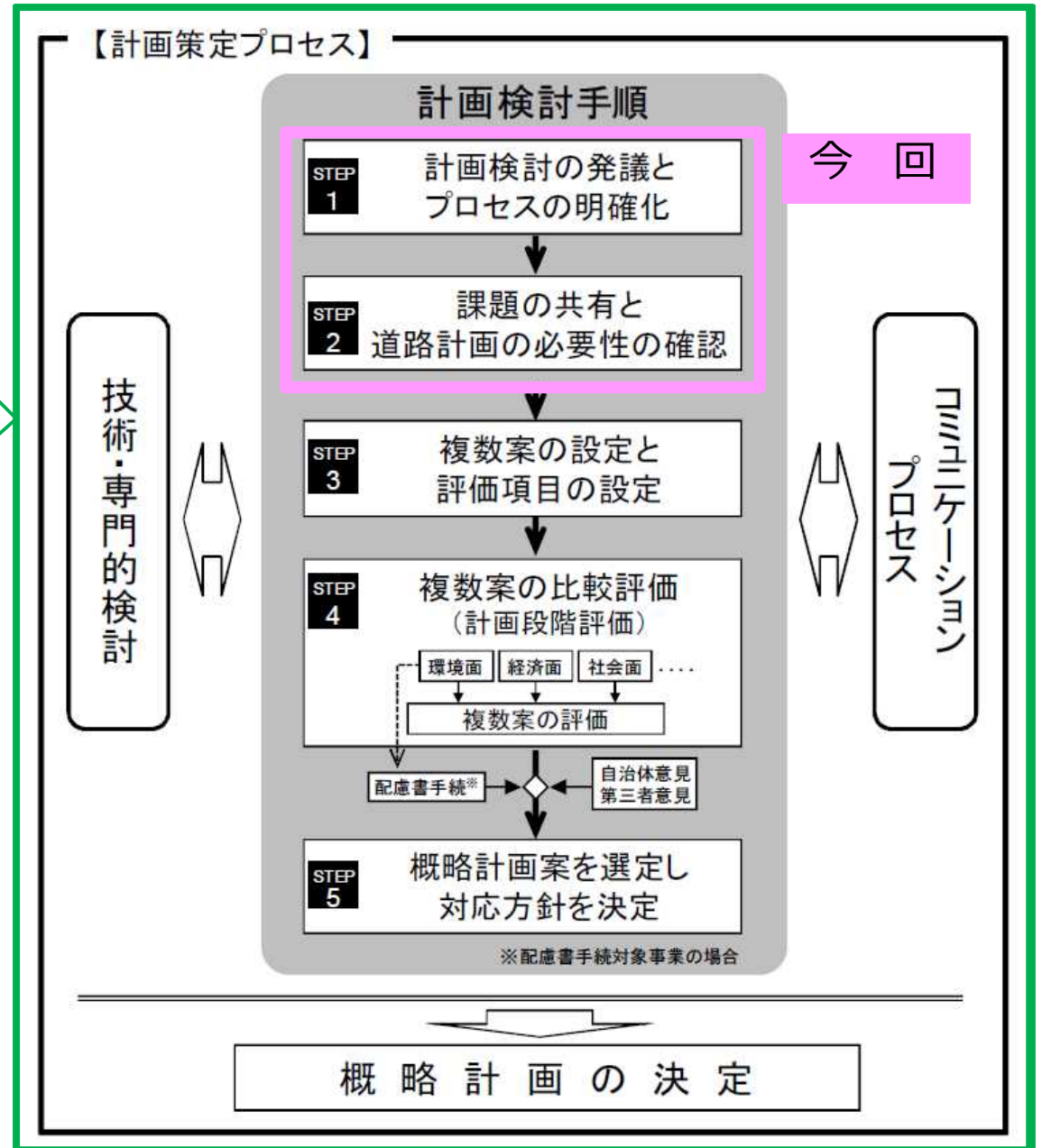


図 計画検討手順の流れ

2-2 構想段階（概略計画）の進め方

①複数ルート帯から、最適ルート帯を絞る

H30春
以降→

第1段階 検討の進め方と課題共有等（STEP1・2）

第2段階 複数案設定と評価項目設定等（STEP3）

第3段階 複数案の比較評価と対応方針決定（STEP4・5）



②最適ルート帯内で、細かいルート帯(100~200m程度)に絞る

（最適ルート帯内で、上記①第2～3段階を実施）

概略計画の決定



③都市計画マスタープラン更新への反映

（参考：現マスタープランは検討～策定まで1年数か月）



【詳細計画段階】都市計画道路決定を目指し、詳細計画を検討

研修会、意見交換会の対象の考え方

- * 今回の概略計画の進め方は、大町市都市計画マスタープランの「進行管理」と考えており、広域的な観点から課題等について意見を交わしたいため、まずは、元大町市都市計画マスタープラン策定委員会の委員や構成団体、自治会代表者等を中心に実施
- * 「①第1段階」で基本的な方向性が定まった後、「①第2段階」で、広く市民の皆様とより詳細な意見交換等を実施

3 課題と計画目標について

地域がめざす将来像からの確認

3 - 1 求められている役割（目標）

(1) 長野県が策定した計画等

長野県次期総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）

地域編：北アルプス地域（抜粋）

【地域を支える松本糸魚川連絡道路の整備】

- 北アルプス地域と松本地域や糸魚川地域とを結ぶ地域高規格道路の調査検討・整備を進め、地域経済の活性化と地域住民の利便性の向上をめざします。
- 高速交通ネットワークの空白地帯であり、高速道路へのアクセス性が低いことが、企業誘致や観光誘客、重篤患者の救急搬送の上で課題となっています。

大北圏域都市計画マスタープラン

都市計画の目標（抜粋）

【圏域の基本方針】

- 安全性、環境面、防災面に配慮した幹線道路や大都市、圏域外との交流ルートの機能を強化する

- 良好な沿道景観の形成に関する広域的な取組を推進

【圏域の将来の都市構造】 主要幹線軸

- 市街地の活性化、圏域内の生活の利便性の向上、商工業、観光等の産業の発展及び災害や救急医療等非常時における緊急輸送路の確保等に配慮した道路ネットワークの形成を図るため『地域高規格道路松本糸魚川連絡道路』などの圏域間を広域的に結ぶ主要幹線軸の機能強化を図る。

大町都市計画区域マスタープラン

交通体系の整備の方針（抜粋）

- 本区域では、大北圏域の中核都市として、圏域間及び県外からの交通や物流の円滑化のため、南北及び東西の広域的な移動の軸について質の高い道路による強化を図る。

- 災害時において、主要幹線道路は広域的な避難路や緊急輸送路として、地域の防災性を高める道路網の整備を図る。

(2) 大町市が策定した計画等

◆大町市の計画における位置付け

大町市 第5次総合計画

基本構想・基本計画

【暮らしやすい都市基盤の整備】

- 市民生活や産業、経済活動の基盤となるストック効果の高い交通環境の整備
- 大北地域から松本地域への所要時間の大幅な短縮を図り地域を支える松本糸魚川連絡道路の整備促進

大町市 都市計画マスタープラン

基本方針

- 災害に強いまちづくりの推進
 - ⇒ 日常の救急搬送や災害時において、信頼性の高い緊急輸送路の確保
- 産業を支え交流を促進する骨格軸の形成
 - ⇒ 松本糸魚川連絡道路や国・県道および都市計画道路等の幹線道路網整備の促進

道路・交通の整備方針

- 広域交通網の整備促進
- 松本糸魚川連絡道路と関連道路・施設の検討・整備の促進
- 集約型都市構造を支える幹線道路網の構築

◆大町市の将来都市構造図



集約型都市構造における人口誘導、集積のイメージ

土地の区分		市街地エリア	用途指定により行政や商業等の都市機能が集積するエリア
		田園エリア	優良農地の保全、田園と調和した集落を形成するエリア
		環境保全エリア	森林・山岳、河川など環境保全を図るエリア
都市活動拠点		中心的拠点	人・もの・情報が行き交う都市活動の中心
		生活拠点	地域の中心として日常生活に必要な機能を確保
		歴史・文化拠点	維持・保全とともに観光活用等を図る施設
		自然・観光拠点	自然環境の保全とともに観光に資する場
		交流拠点	自然とのふれあいやレクリエーションを通じ、市民生活に憩いと安らぎを与える場
骨格軸		広域都市連携軸	周辺都市との広域的な交流・連携等を担う
		地域連携軸	地域間、拠点間を結び、交流・連携を担う
		自然観光交流軸	中心的拠点と自然・観光拠点の交流・連携を担う

※図で示した松本糸魚川連絡道路の市街地を通過するルートは、本MPにおいて大町市が考える最適なルートとして想定したものです。

出典：H26.3

大町市都市計画マスタープラン

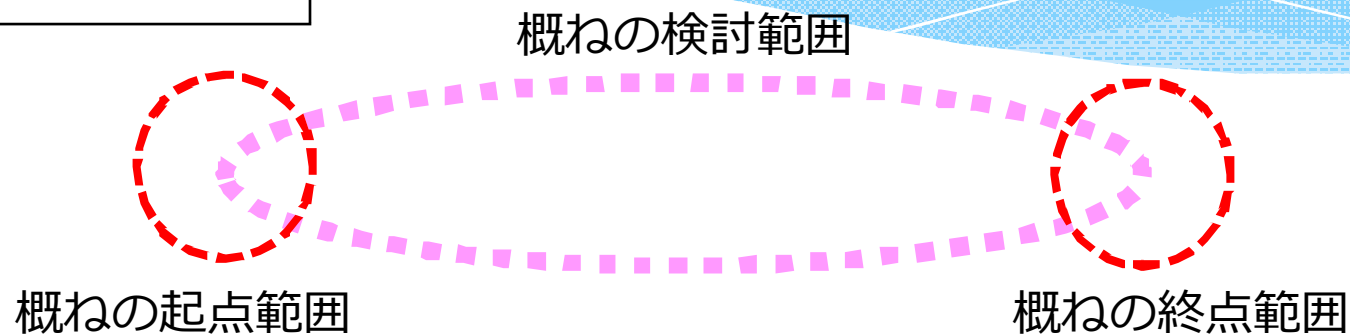
(3) 求められる役割 (目標)

県5計	圏域MP	区域MP	市5計	市MP	計画への記載事項	役割 (目標)	
	●				防災性に配慮した幹線道路	災害に強い道路	
	●				災害等非常時における緊急輸送路の確保		
				●	信頼性の高い緊急輸送路の確保		
●					地域住民の利便性の向上	交通の円滑化	
	●				大都市、圏域外との交流ルート		
	●				圏域内の生活の利便性向上		
	●				圏域間を広域的に結ぶ		
		●			圏域間及び県外からの交通の円滑化		
			●		松本地域への所要時間の大幅な短縮		
●					地域経済の活性化		地域活性化 (産業・観光等)
●					高速道路へのアクセス性の低さ⇒企業誘致・観光誘客の課題		
	●				市街地の活性化		
	●				商工業、観光等の産業の発展		
		●			圏域間及び県外からの物流の円滑化		
			●		市民生活や産業、経済活動の基盤となるストック効果の高い交通環境		
				●	産業を支え交流を促進		
●					高速道路へのアクセス性の低さ⇒重篤患者の救急搬送の課題		
	●				安全性に配慮した幹線道路	安全な暮らしの確保	
	●				救急医療時における緊急輸送路の確保		
		●			地域の防災性を高める道路網(広域的な避難路や緊急輸送路)		
	●				環境面に配慮した幹線道路	環境・景観の保全	
	●				良好な沿道景観の形成		

大町市街地区間検討範囲において

3 - 2 地域の現状と課題

図における凡例

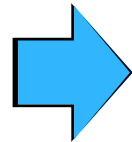


※概ねの目印として表記したもので、位置を特定したものではありません。

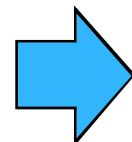
(1) 目標(案)と課題の対応整理

道路計画の目標案

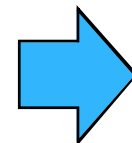
1 災害に強い道路



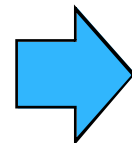
2 交通の円滑化



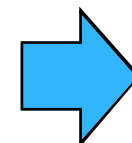
3 地域活性化
(産業・観光等)



4 安全な暮らし
の確保



5 環境・景観の保全



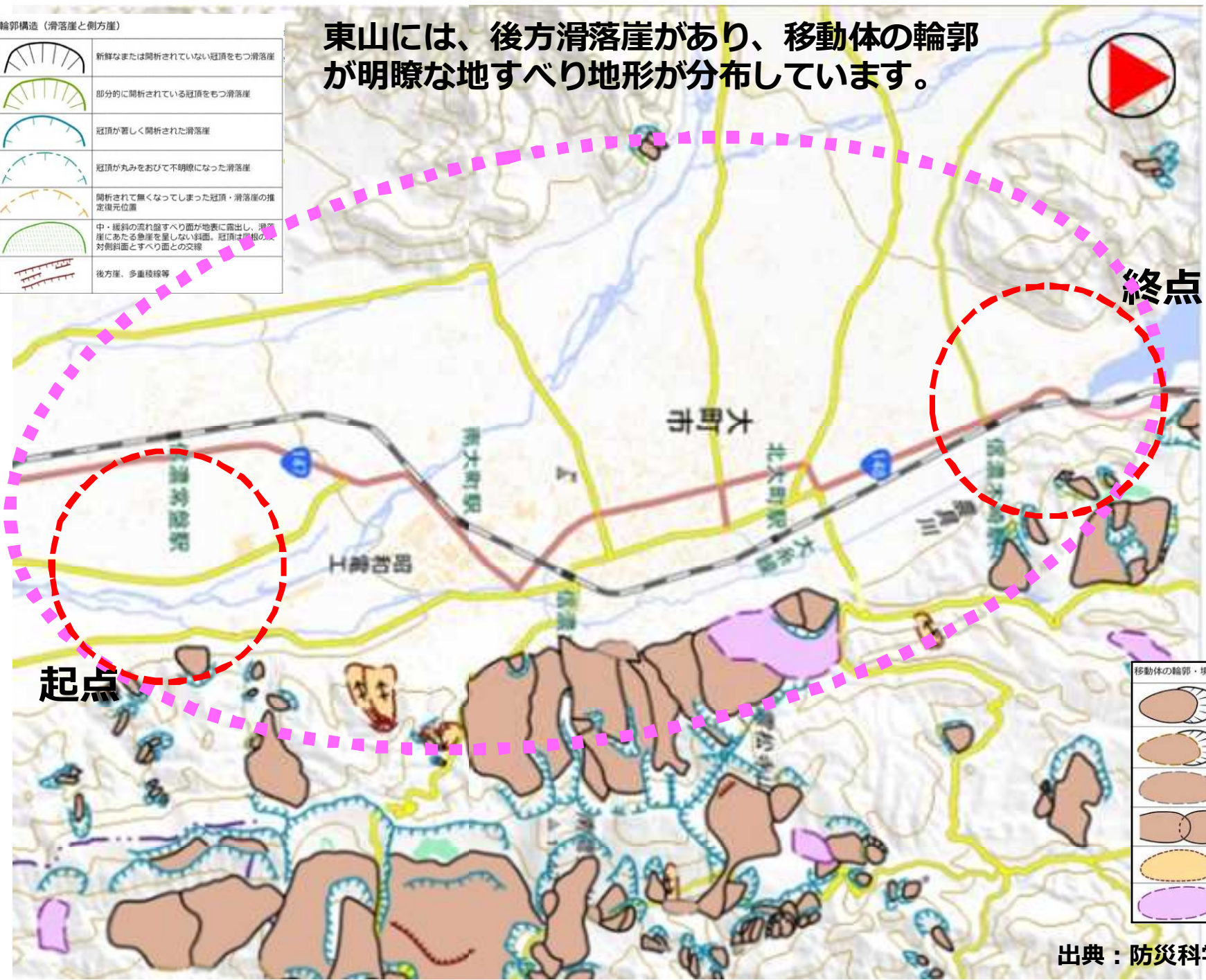
		上位計画での 主な記載事項	地域の現状と課題	原因等	課題 No. (2) ~ (6)
防 災	災 害	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災性を高める道路網 ・災害等非常時における緊急輸送路の確保 ・信頼性の高い緊急輸送路の確保 	様々な危険箇所があることによる災害時のリスク	地形条件	(7) ~ (8)
	道 路	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域間及び県外からの交通の円滑化 ・生活の利便性向上 	交通の集中による速度低下	通過交通の混在 信号交差点の連続	(9)
地 域	事 故	—	交通事故が多発	通過交通の混在 信号交差点の連続	(9)
	観 光	<ul style="list-style-type: none"> ・商工業、観光等の産業の発展 ・産業を支え交流を促進 	観光業への影響	広域的な周遊ルートが確保されていない	(11)
	物 流	<ul style="list-style-type: none"> ・物流の円滑化 ・市街地の活性化 	製造業への影響	信頼性の高い広域交通網が確保されていない	(12)
	医 療	救急医療時における緊急輸送路の確保	高次医療施設が少なく、松本地域との医療の連携が必要	走行性が悪い	(13) ~ (17)
	環 境	環境面に配慮 良好な沿道景観形成	雄大な北アルプスがそびえ水と緑が豊かな地域	(今後の検討時に配慮が必要)	

(2) 地形 (地すべり地形分布)

輪郭構造 (滑落崖と側方崖)

	新鮮なまたは開析されていない冠頂をもつ滑落崖
	部分的に開析されている冠頂をもつ滑落崖
	冠頂が著しく開析された滑落崖
	冠頂が丸みをおひて不明瞭になった滑落崖
	開析されて無くなってしまった冠頂・滑落崖の推定復元位置
	中・緩斜の流れ面が露出し、滑落崖にあたる急崖を呈しない斜面。冠頂は崖根の反対側斜面とすべり面との交線
	後方崖、多重稜線等

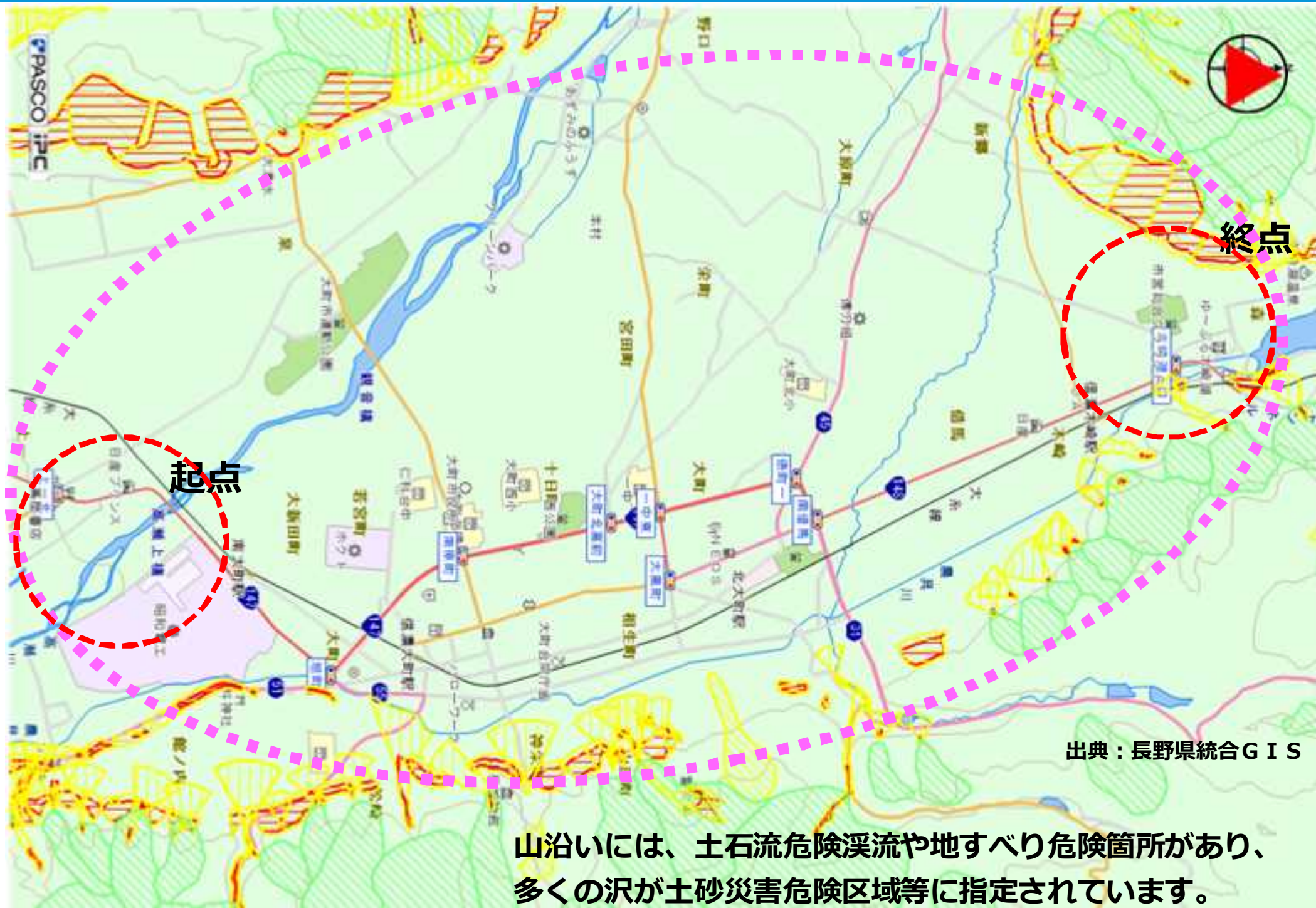
東山には、後方滑落崖があり、移動体の輪郭が明瞭な地すべり地形が分布しています。



移動体の輪郭・境界

	後方に滑落崖があり、移動体の輪郭が明瞭ないし判定可能
	後方の滑落崖は明瞭であるが、移動体の輪郭の判定が困難
	滑落崖はほとんど開析されてしまったが、過去の移動体の一部 (不安定土塊) が残存している
	ほかの移動体や堤構物におおわれた部分
	斜面体の移動の初期状態。基岩から分離していないとしても不安定域、移動域と推定される範囲
	斜面移動体かどうか判定できない山体・小丘

(3) 土砂災害防止法 指定状況



出典：長野県統合GIS

山沿いには、土石流危険渓流や地すべり危険箇所があり、多くの沢が土砂災害危険区域等に指定されています。

(4) 浸水想定区域

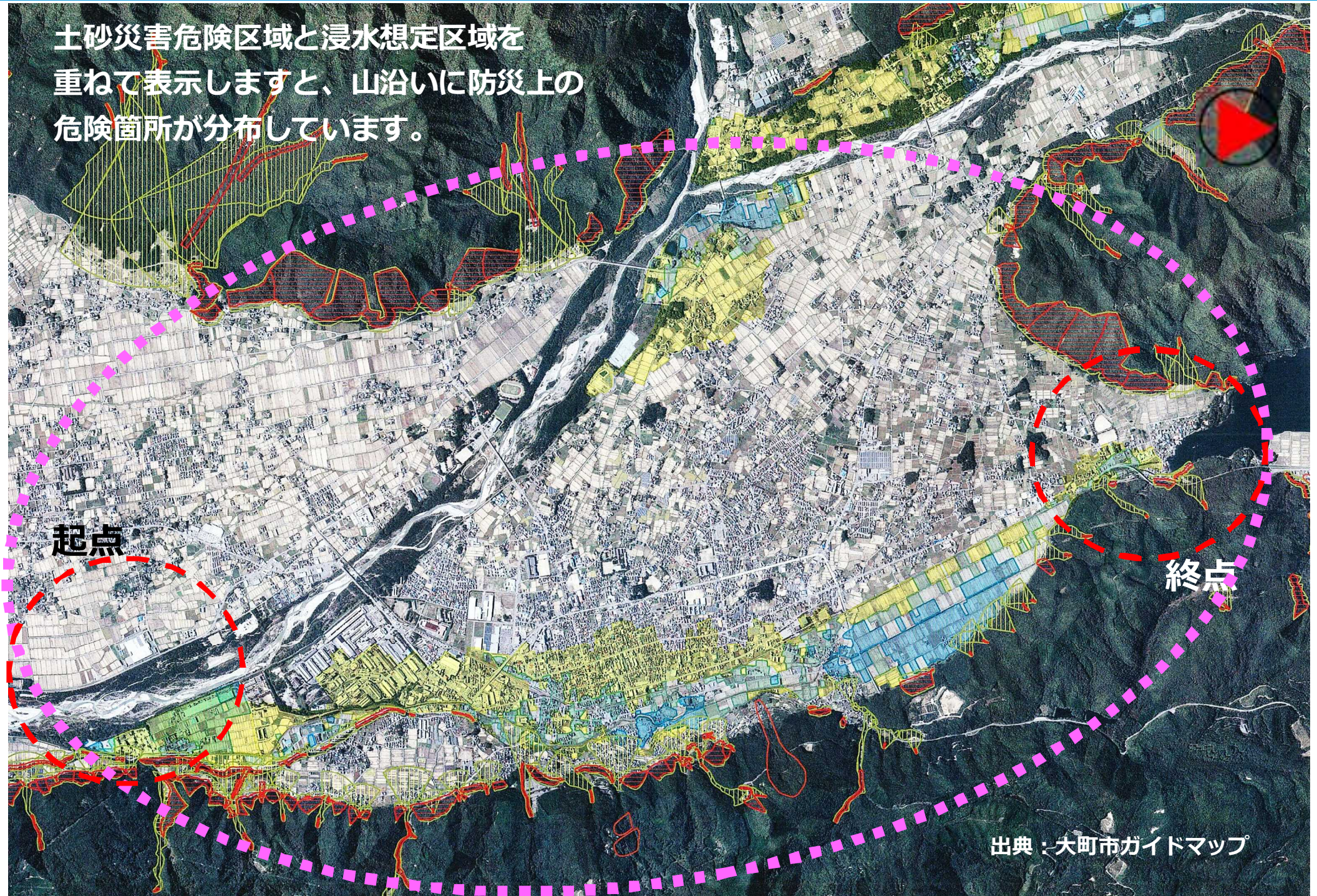
高瀬川と鹿島川の合流付近や農具川沿いには、
浸水想定区域が広がっています。



出典：大町市ガイドマップ

(3)(4)土砂災害防止法・浸水想定区域

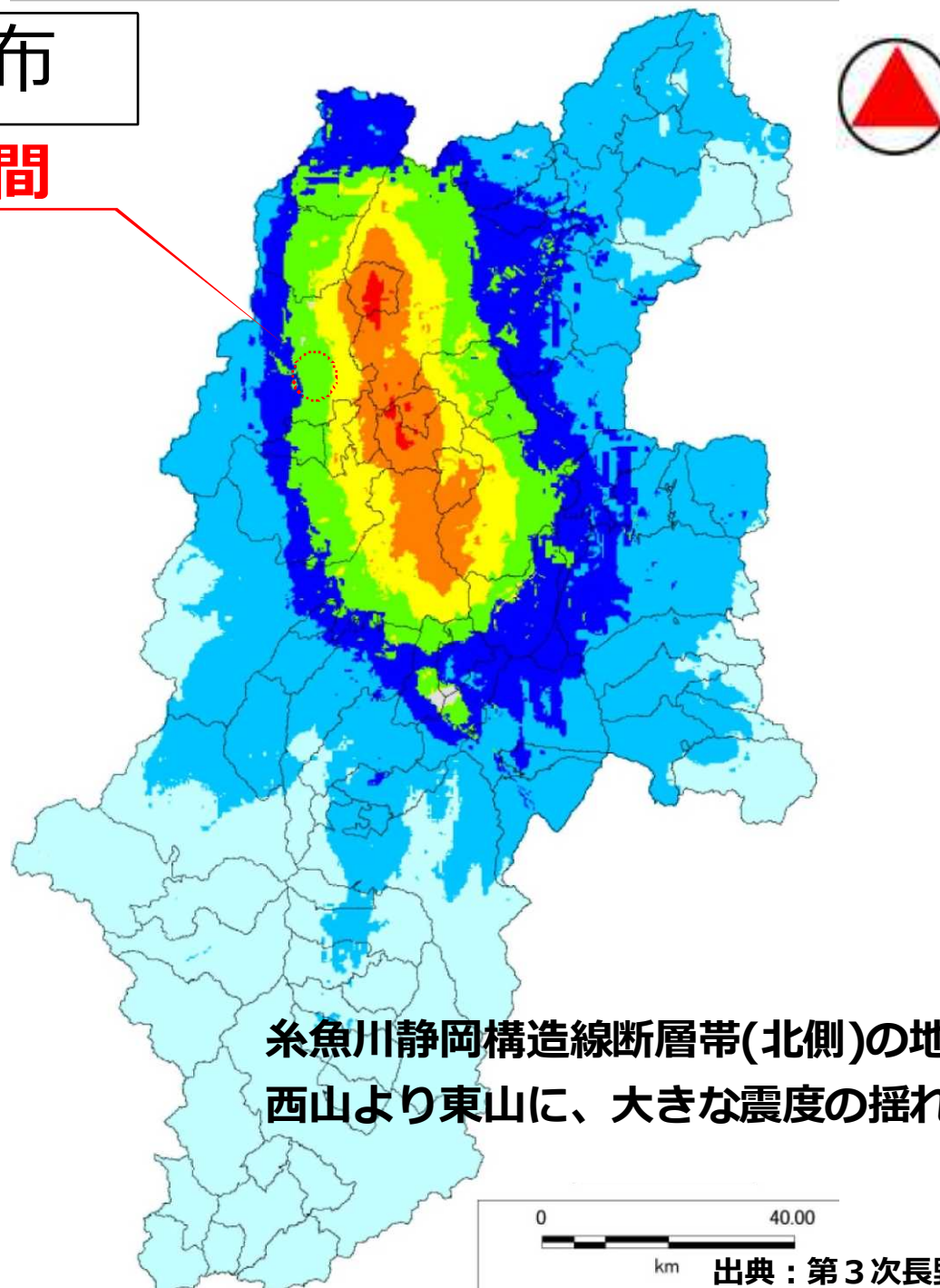
土砂災害危険区域と浸水想定区域を重ねて表示しますと、山沿いに防災上の危険箇所が分布しています。



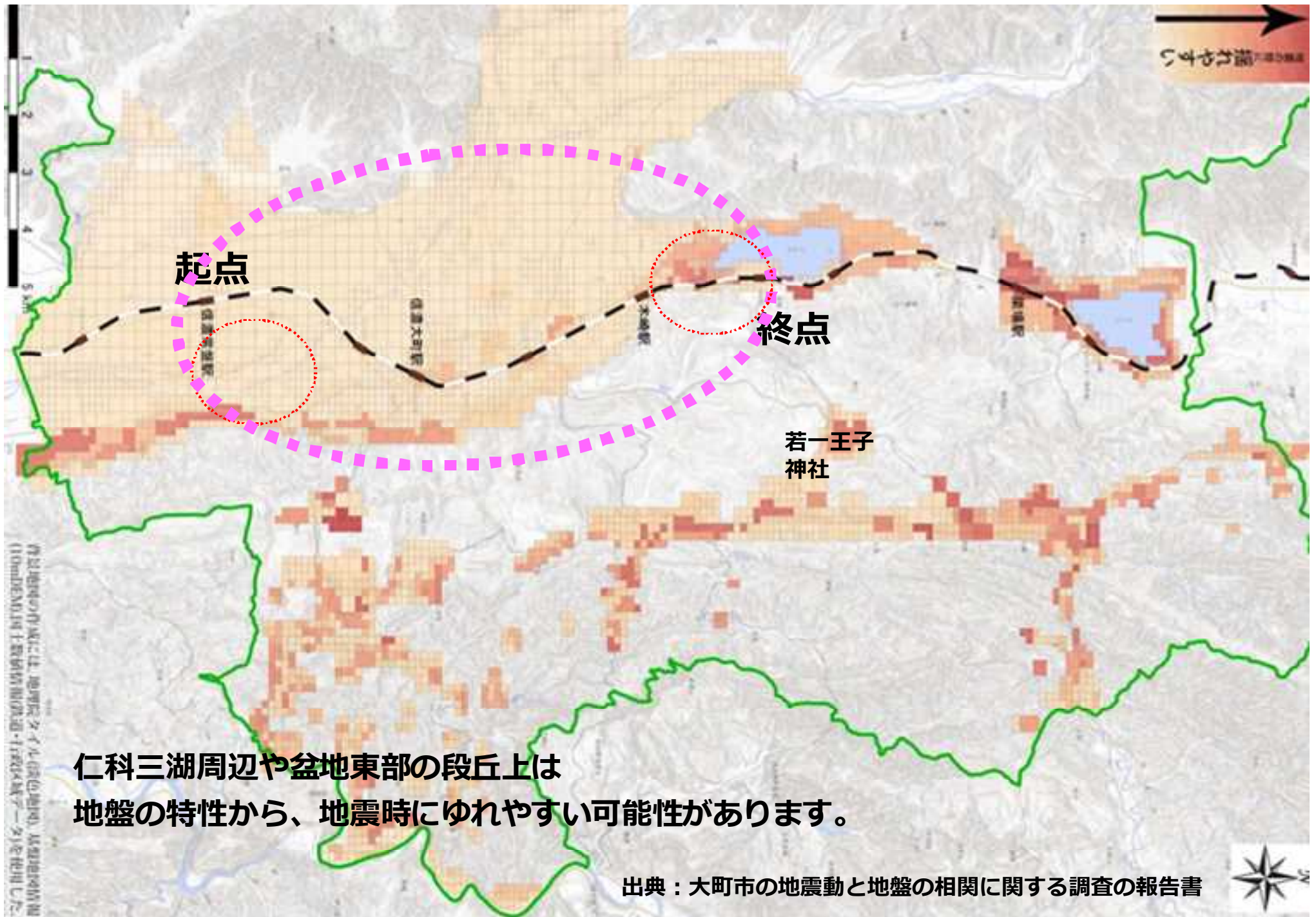
(5) 糸魚川静岡構造線断層帯の地震(北側)

想定震度分布

大町市街地区間



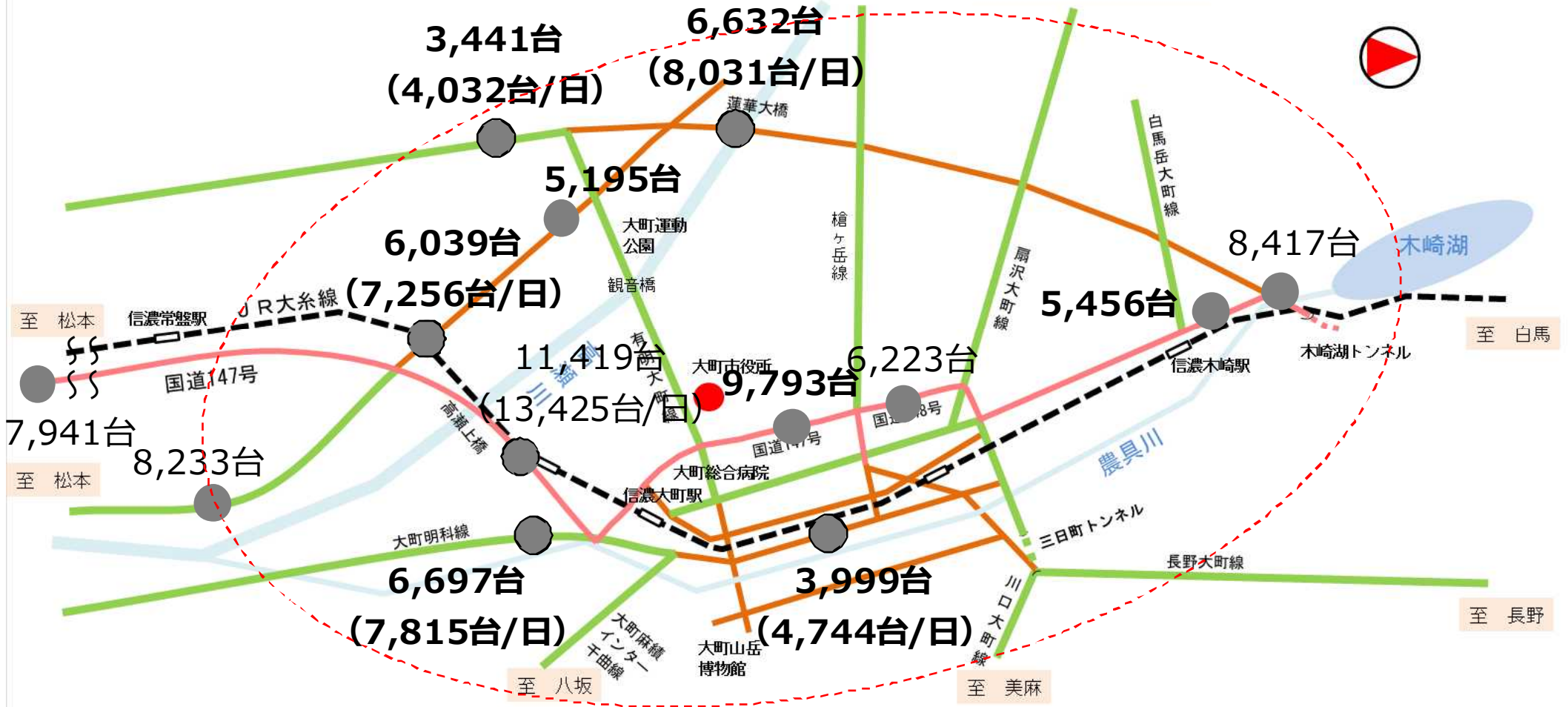
(6) 大町市ゆれやすさマップ



(7) 現況交通量

◆ 12時間交通量で表示

細字：H27全国道路・街路交通情勢調査
 太字：H28～29調査値
 (カッコ) 内は24時間交通量



国道は 約5,000～11,000台/12h、
 東側市道は 約4,000台/12h、
 西側市道は 約5,000～7,000台/12h が通行しています。

(8) 国道における速度低下

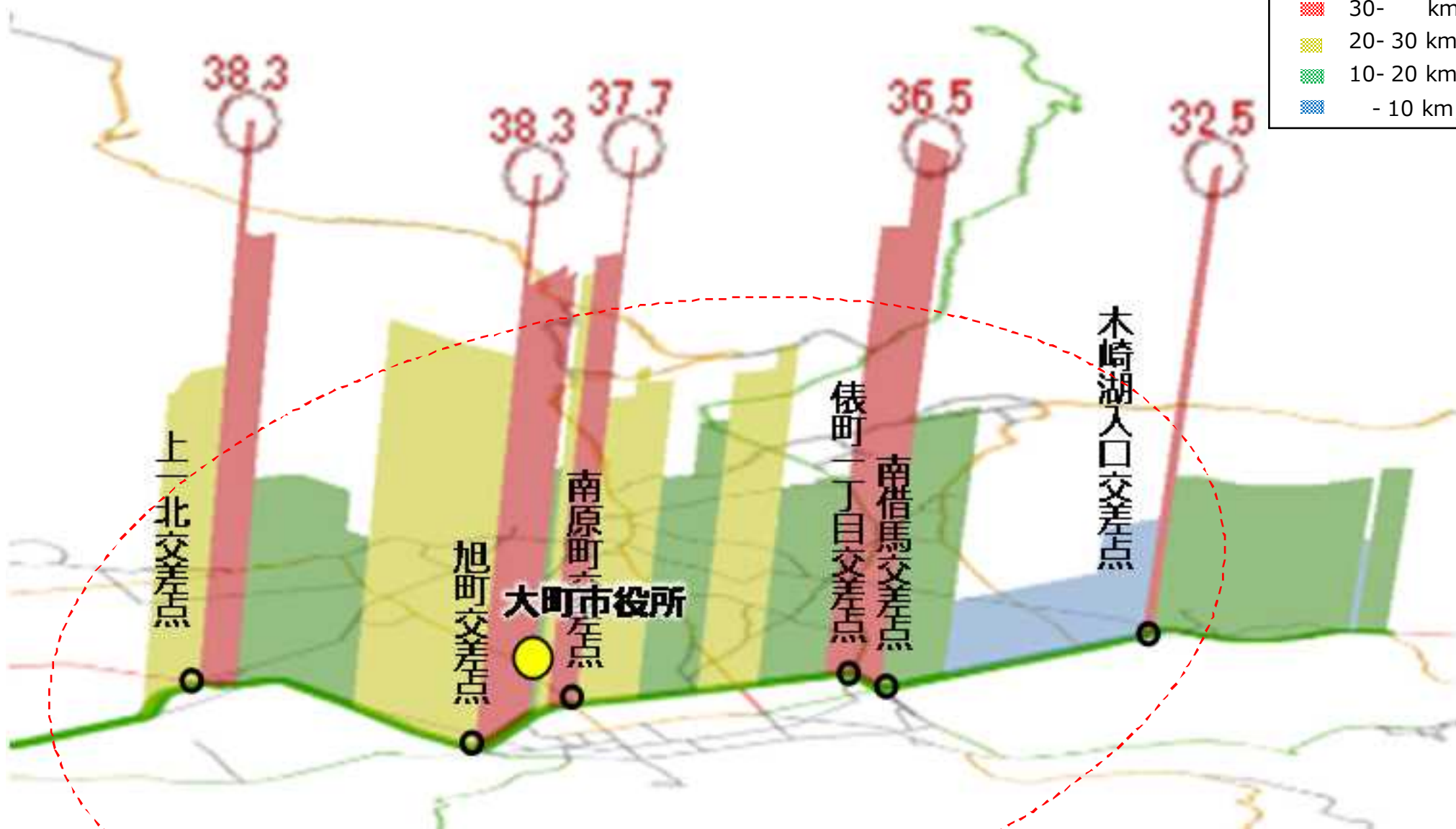
現状・課題

大町市街地部(特に交差点)で速度低下が発生

※冬期の速度低下も有

◆現道における速度低下 ※速度低下：60km/h（目標速度）－年平均旅行速度km/h（民間プローブデータ、H28.4～H29.3）

凡 例	
速度低下	
■	30- km/h
■	20- 30 km/h
■	10- 20 km/h
■	- 10 km/h



(9) 国道における交通事故

現状・課題

特に大町市街地において死傷事故が多発

◆ 国道147号、148号と大町市街地の交通事故の状況



大町市街地では、特に交差点の死傷事故率が高く、追突事故が主な事故原因を占めています。

【大町市街地拡大図】



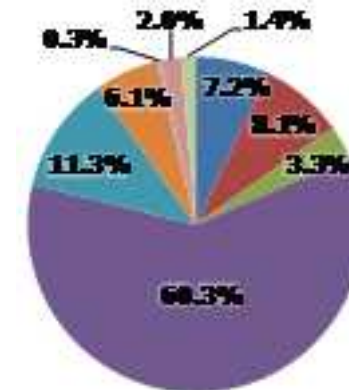
凡例	
死傷事故率(H16-26)	単位：件/億台km
	300-
	100-300
	-100

※死傷事故率：自動車の走行距離の総和あたりの死傷事故発生件数

資料：ITARDAデータ（H22-H25）をもとに作成

【国道の主な事故要因】

国道147号,148号：大町市街地区間
(南借馬交差点～上一北交差点)



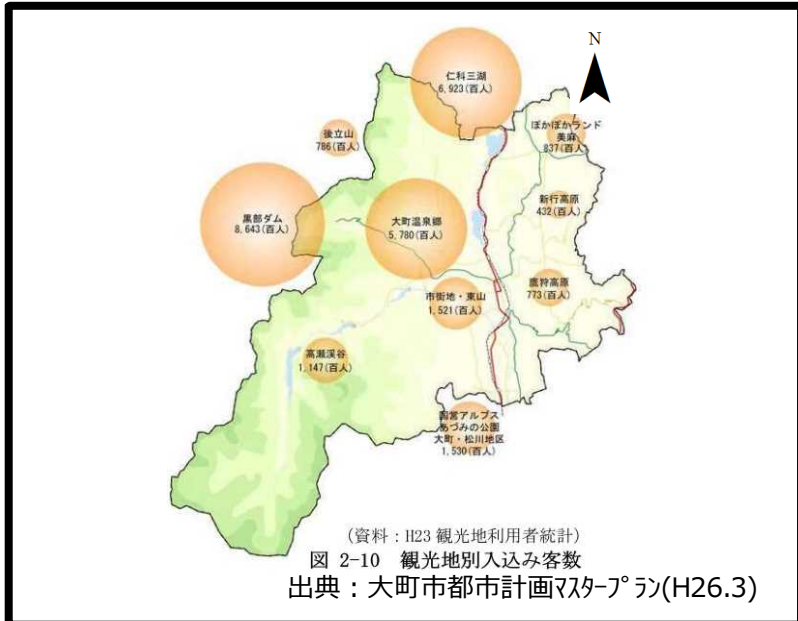
- 歩行者事故
- 自転車事故
- 車両相互 (正面衝突)
- 車両相互 (追突)
- 車両相互 (出会い頭)
- 車両相互 (右折)
- 車両相互 (左折)
- 車両相互 (その他)
- 車両単独

(10) 観光

現状・課題

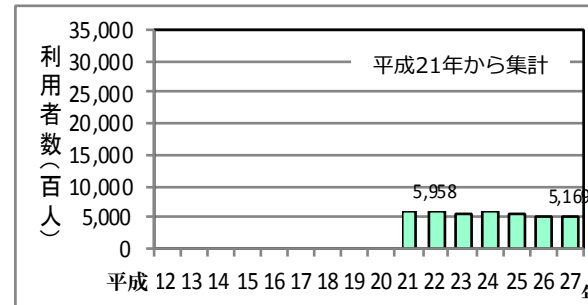
- 大町市は黒部ダム・立山黒部アルパルートなど全国的に知名度が高い観光資源に恵まれている
- 市内への観光客数が横ばいまたは減少傾向であるものの、外国人観光客の割合は増加

◆ 観光地別入込客数

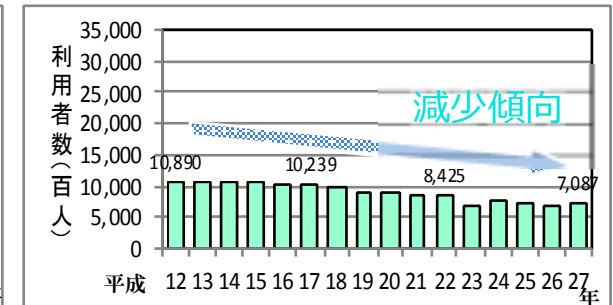


◆ 大北地域の観光客数の推移

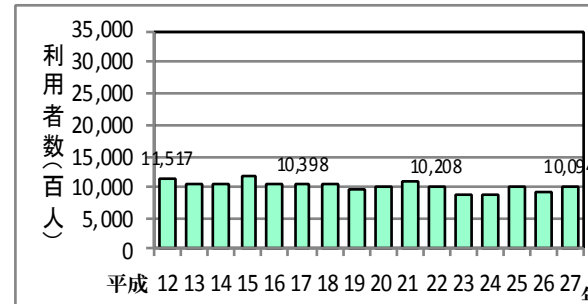
○ 大町温泉郷 (大町市)



○ 仁科三湖 (大町市)



○ 黒部ダム (大町市)



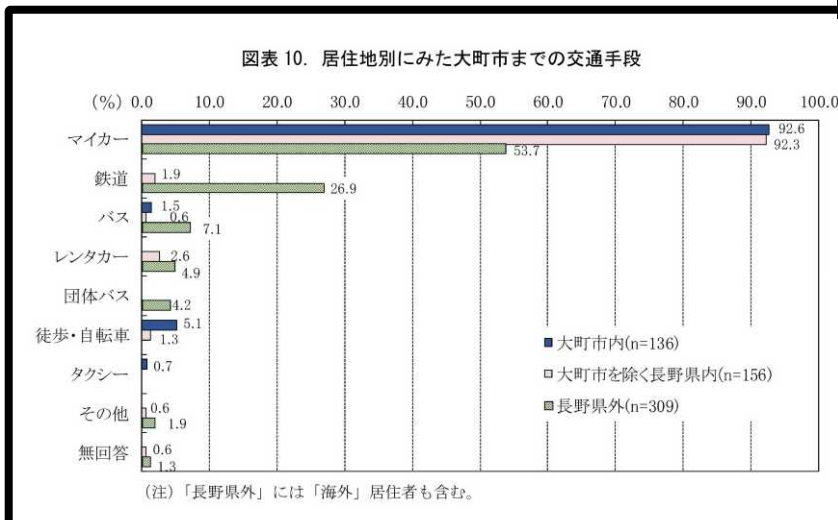
○ 立山黒部アルパルート

	H27	H28	H29
入込人数(人)	997,000	922,000	929,000
国内入込割合 (%)	78.4	73.8	71.7
訪日入込割合 (%)	21.6	26.2	28.3

資料：平成27年観光地利用者統計調査結果(長野県観光部山岳高原観光課)

資料：営業概況(立山黒部観光株式会社)

◆ 国際芸術祭来場者における交通手段



大町市までの交通手段は、いずれの居住地においても「マイカー」が最も多かった(図表10)。しかし、県外居住者については「鉄道」が26.9%と3割近くを占めている。

鉄道を含む高速交通ネットワークの空白地帯である大町市の観光誘客にとって、圏域間を広域的に結ぶ主要幹線軸の機能強化は重要。

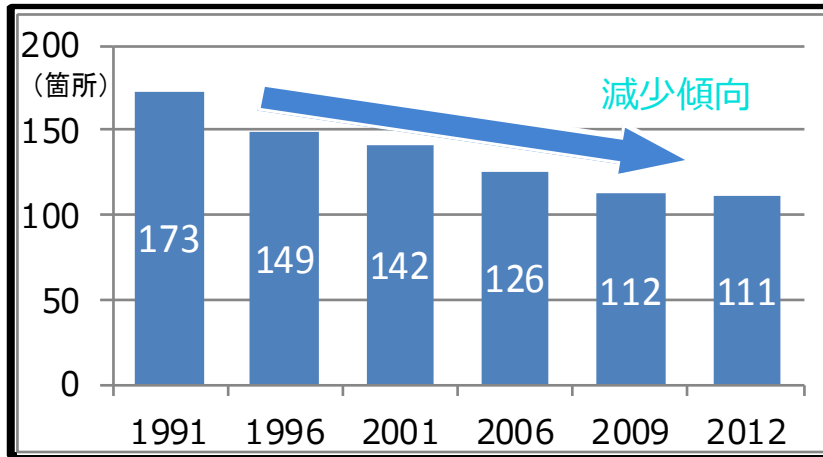
出典：北アルプス国際芸術祭経済効果分析調査業務(H29.10)

(11) 物 流

現状・課題

- 大町市内の製造業事業所数は年々減少傾向にある
- 高速道路ICからの距離があり、道路事情が悪い

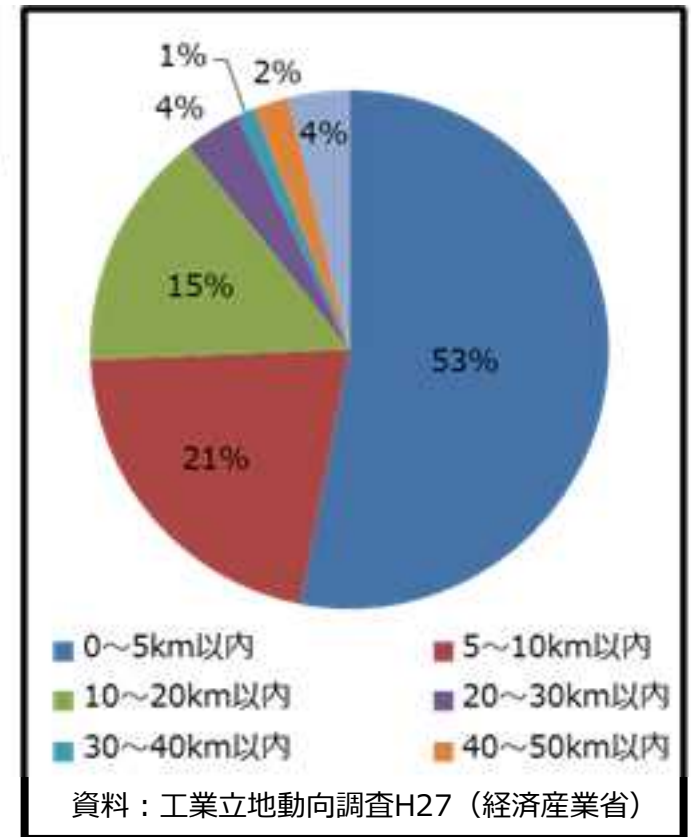
◆大町市内の製造業事業所数の推移



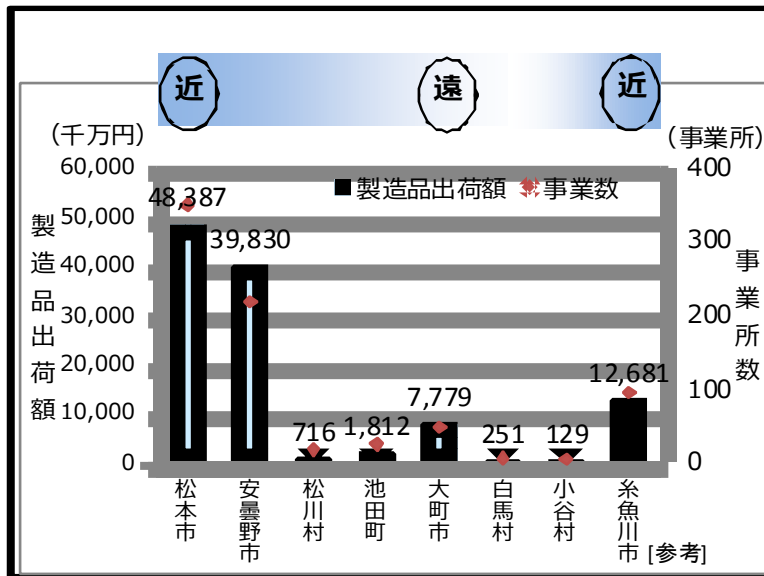
資料:大町市統計要覧
(産業大分類別事業所数)

参 考

◆工場立地とICの関係(全国)



◆製造品出荷額とI Cからの距離

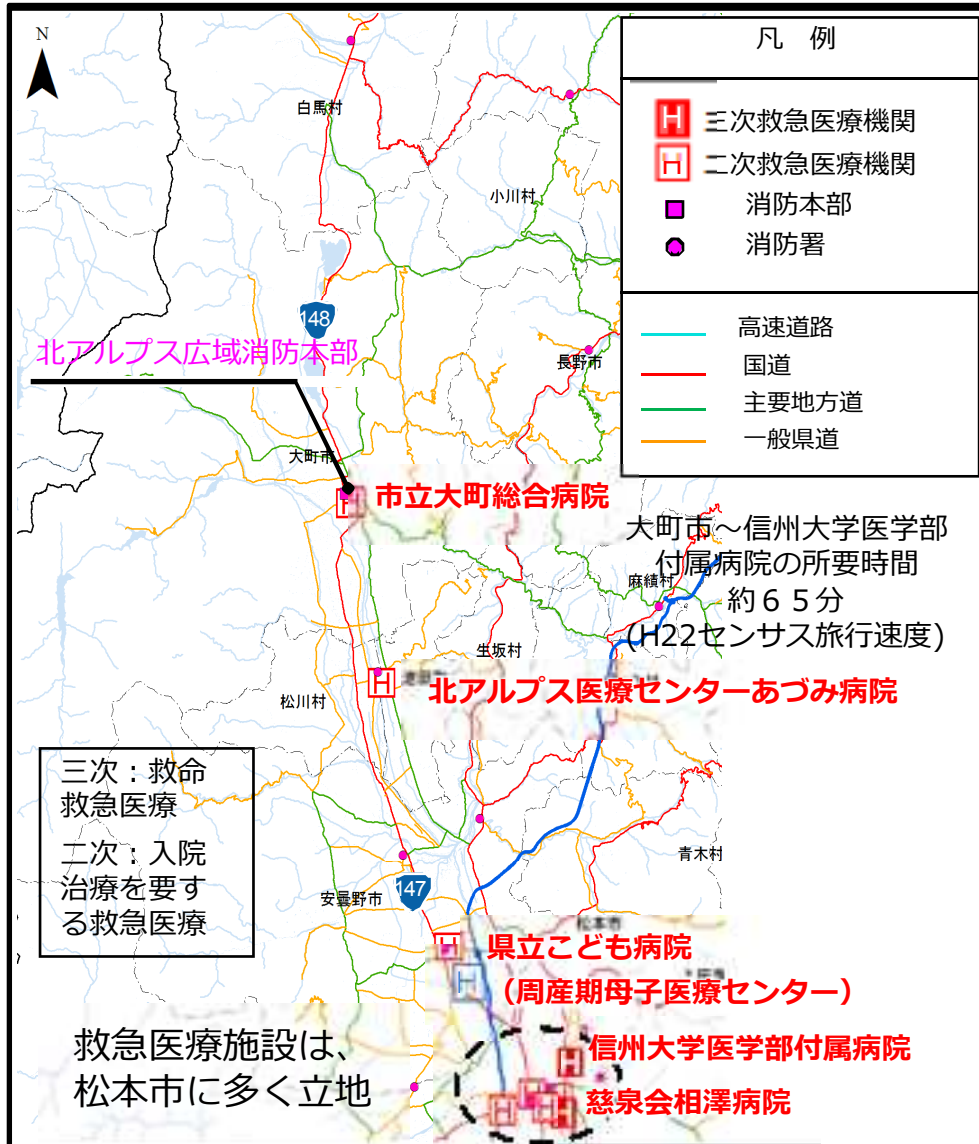


(12) 救急医療施設へのアクセス性

現状・課題

■ 大北地域は高次医療施設が少なく、松本地域との医療の連携が必要

◆大北地域周辺の高次医療機関の分布



◆ヒアリング調査結果

<搬送に国道147号・148号を利用>

- ・ 救急搬送の場合、搬送先は信州大学医学部附属病院や慈泉会相澤病院が多い。
- ・ 国道148号や国道147号を利用して松本市まで搬送する。

資料：H25.1.北アルプス広域消防本部へのヒアリング調査

<救命率の向上に期待>

- ・ 県立こども病院は、県内唯一の周産期母子医療センターであり、周産期搬送は一般の救急搬送よりも危険度が高く、道路整備と救命率向上の関係性は大きい。
- ・ ドクターヘリは天候に左右されやすく、常時使えるわけではないため、高規格道路の整備によって道路の凸凹が減ることで、搬送中の治療が安定し、救命率の向上が期待できる。

資料：H25.1.県立こども病院へのヒアリング調査

患者の流出入の状況（2013年度診療分、国保と後期高齢のレセプトによる分析）

区域内居住者の受診先の所在地

・ 多くの診療分野について、隣接する松本区域へと流出する傾向にあります。特に回復期・小児の入院の流出割合が非常に高い状況です。

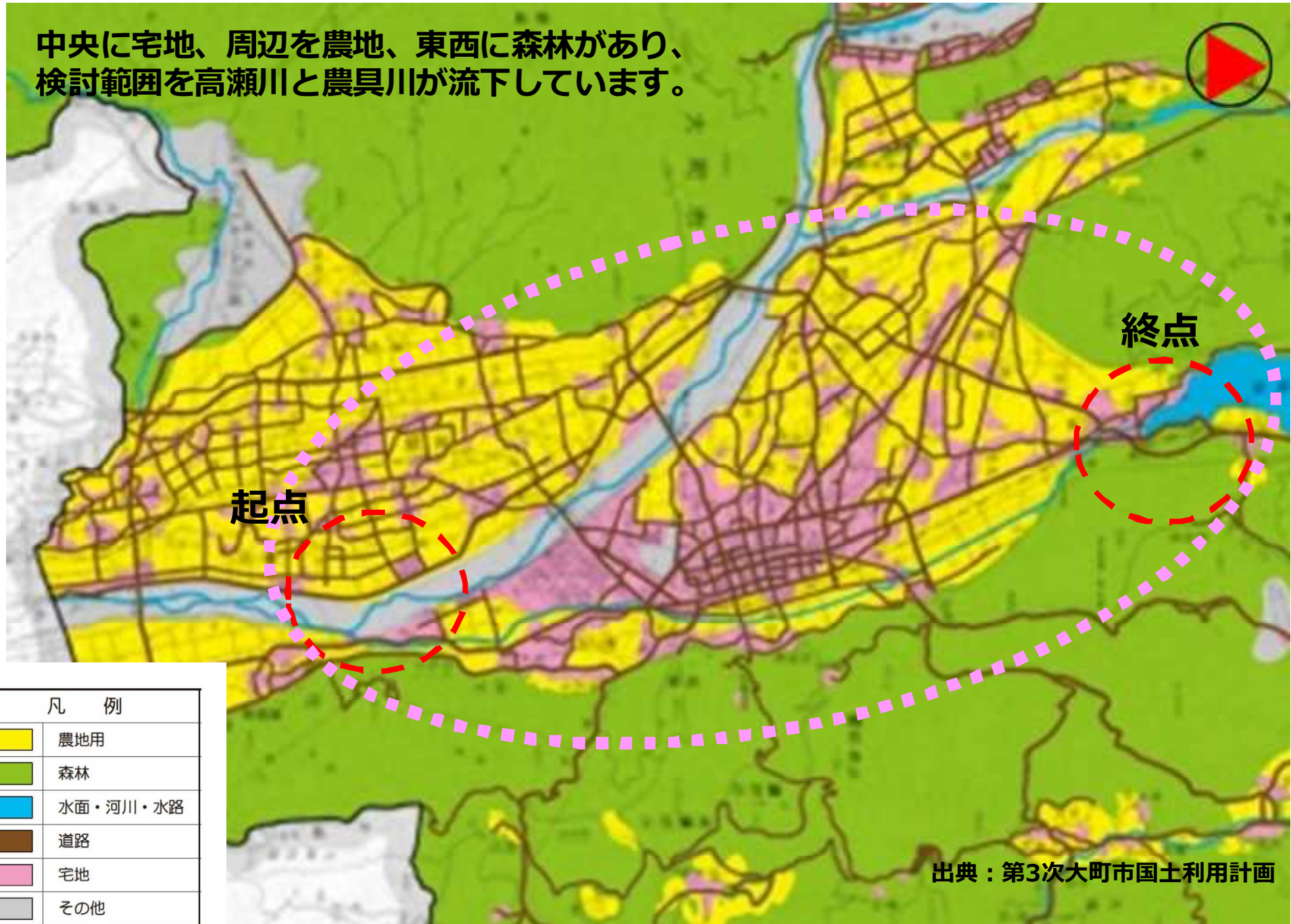


急性心筋梗塞の入院は75%程度、2次救急は20%弱の割合で松本区域へ依存

出典：長野県地域医療構想(H29.3)

(13) 土地利用状況

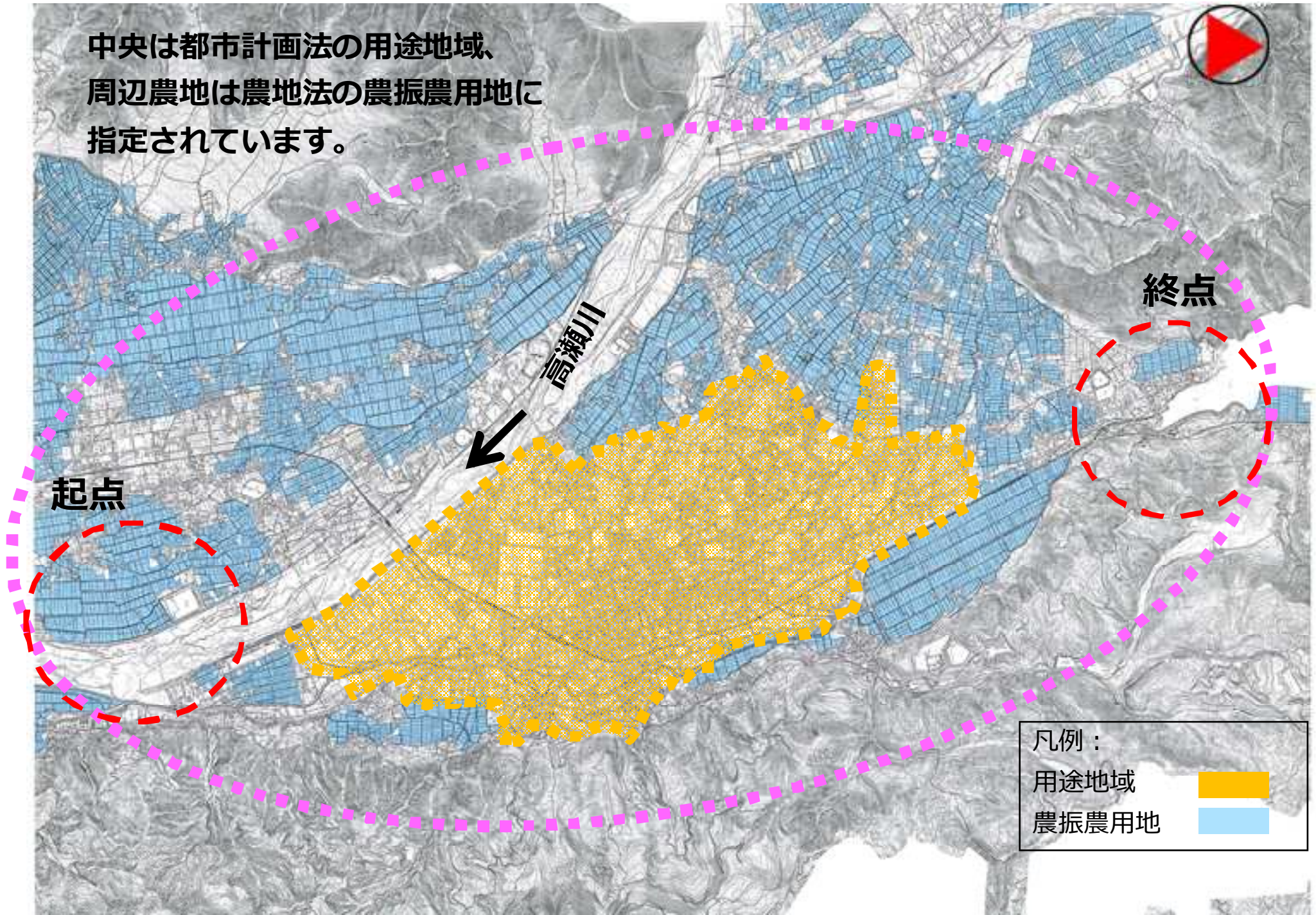
中央に宅地、周辺を農地、東西に森林があり、
検討範囲を高瀬川と農具川が流下しています。



出典：第3次大町市国土利用計画

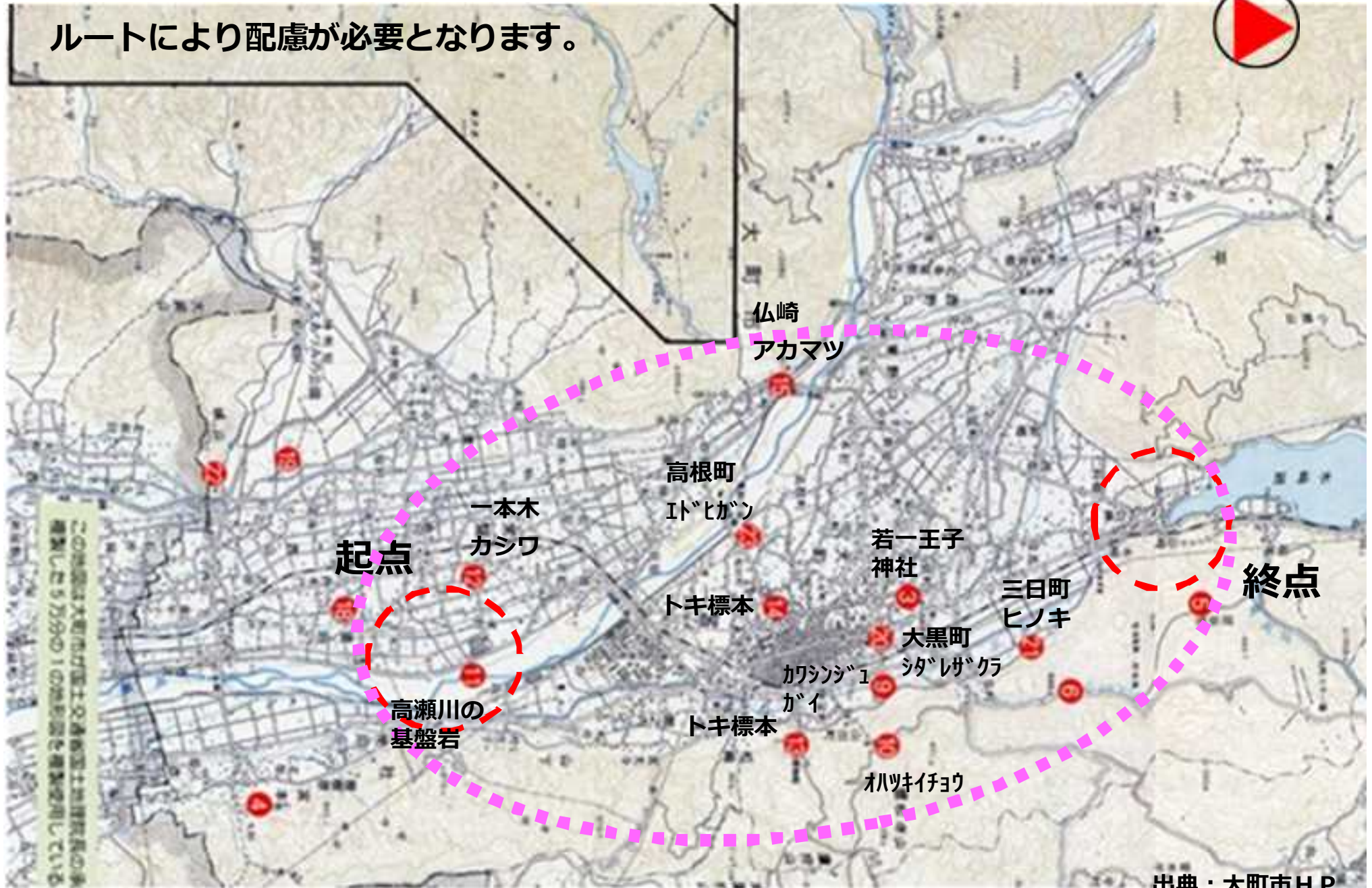
(14) 土地利用計画

中央は都市計画法の用途地域、
周辺農地は農地法の農振農用地に
指定されています。



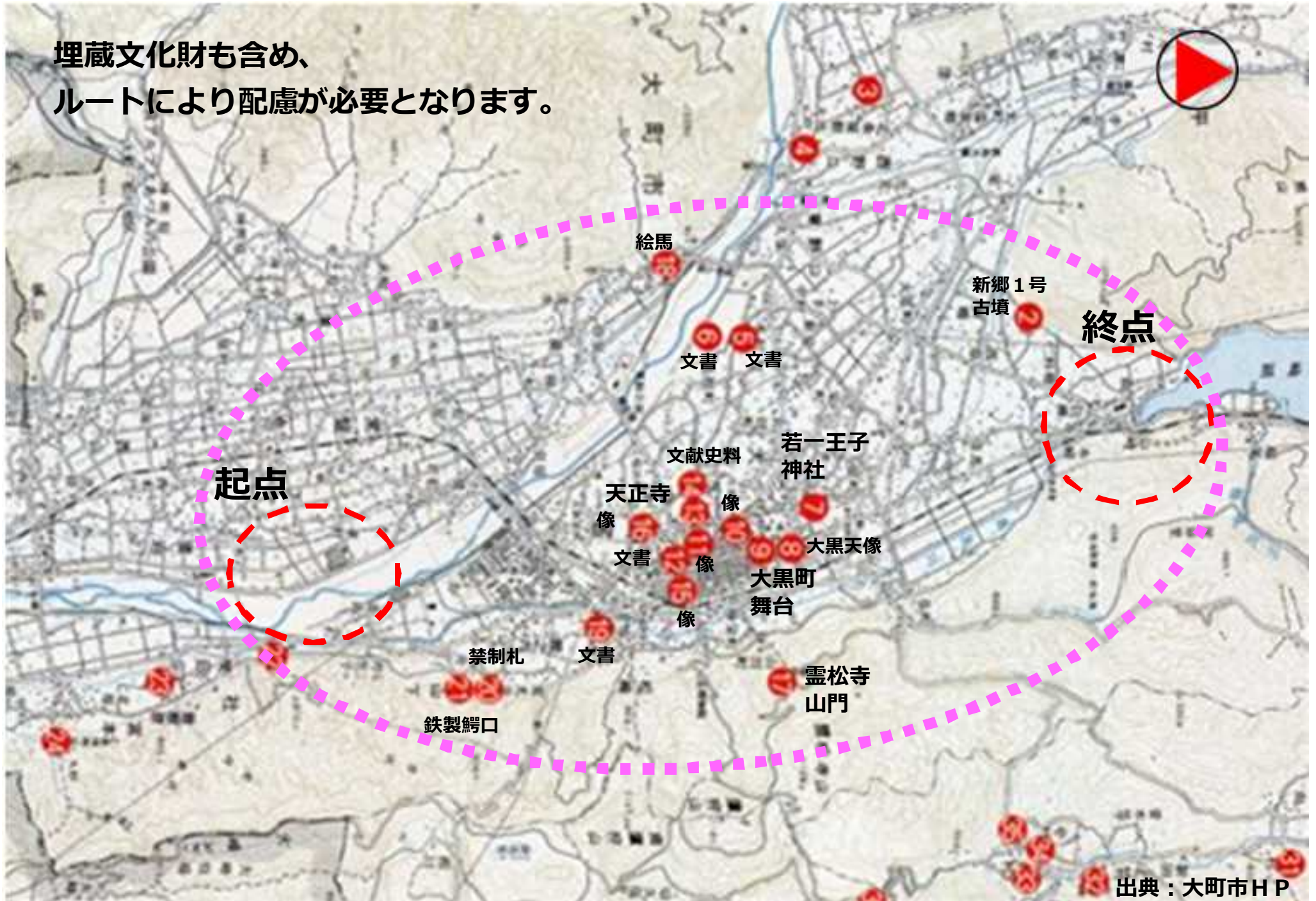
(15) 天然記念物

ルートにより配慮が必要となります。



(16) 文化財

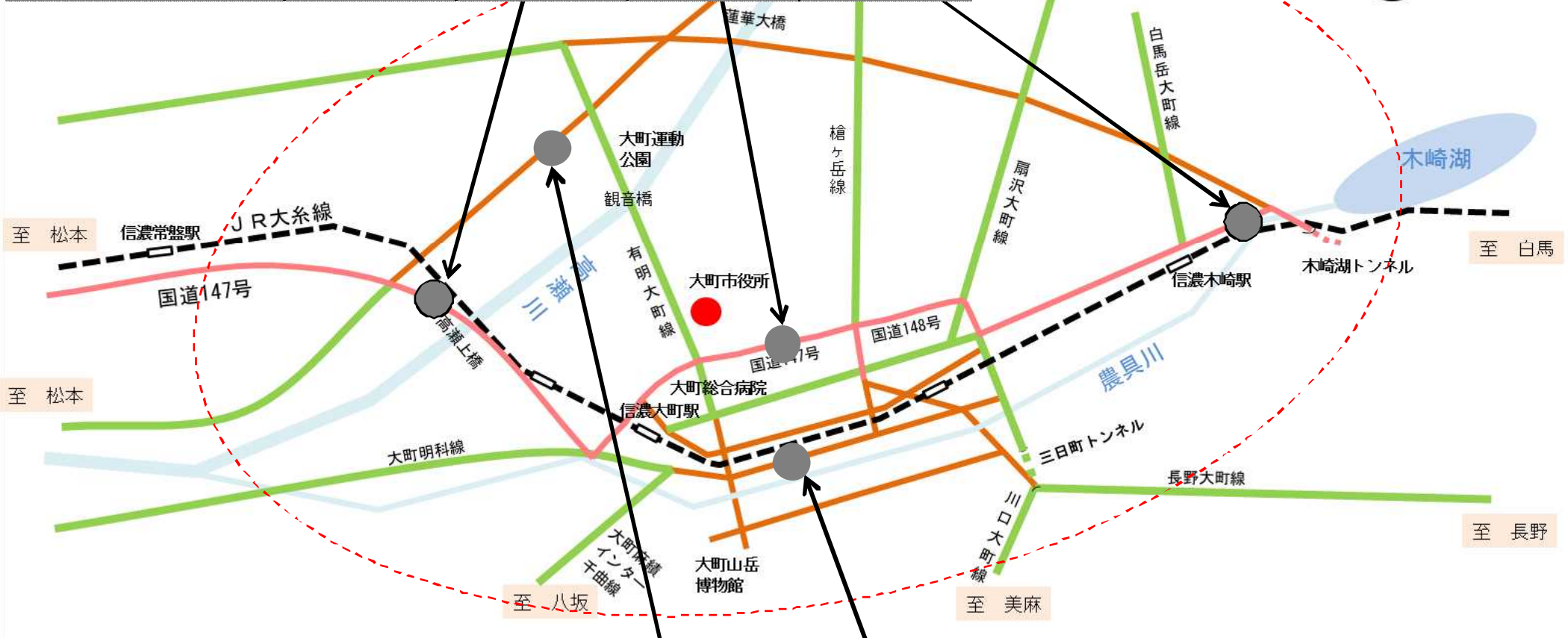
埋蔵文化財も含め、
ルートにより配慮が必要となります。



(17) 沿道環境 (騒音・振動)

観測日 : H29.5.16~5.17

	【参考】 要請限度		国道147号 高瀬上橋南		国道147号 市街地		国道148号 木崎湖付近	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
等価騒音レベル(dB(A))	75	70	68	62	67	61	67	61
振動レベル(dB)	70	65	30	30				
	65	60					30	30
自動車交通量(台/12h)			12,509		9,793		5,456	



	【参考】 要請限度		西側市道 運動公園付近		東側市道 合庁付近	
	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
等価騒音レベル(dB(A))	75	70	65	62	64	61
自動車交通量(台/12h)			5,195		3,782	

全箇所において、要請限度を下回っている

4 今後の予定

4-1 概略計画の方向性(案)

道路交通や大町市街地の現状と課題を解消するとともに、地域の将来像を踏まえて、道路計画の目標案を以下のとおり設定

道路計画の目標(案)

- 1 災害に強い道路** : 信頼性が高いルート of 確保
- 2 交通の円滑化** : 交通混雑の緩和、サービス速度を確保
- 3 地域活性化(産業・観光等)**
: 高速道路ICまでの走行時間短縮と定時性の向上
交流促進、地域活性化の支援
- 4 安全な暮らしの確保** : 高次救急医療機関への速達性向上
- 5 環境・景観の保全** : 環境への配慮と良好な景観形成

大町市街地区間について

複数ルート帯の比較検討を行い、概略計画をまとめる

4 - 2 意見交換会の予定

「①第1段階：検討プロセスの明確化と課題共有等」

■ 開催時期

* H30.4～

■ 対象者

* 自治会代表者、元大町市都市計画マスタープラン策定委員や構成団体等を中心

■ 説明内容

* 本日より同内容を予定

■ ご意見をいただきたい項目

* 進め方全般について

* 地域課題の過不足

* 道路計画目標(案)の妥当性

* 検討時に配慮すべき事項 など